

2021年の干支は、辛丑

2021年の干支

意味

- ①十二支の二番目。動物では牛に当てる
- ②方角の名。北北東
- ③時刻の名。今の午前2時ごろ およびその前後約2時間(午前1時ごろから午前3時ごろ)

丑三(うしみつ)

丑の刻を四分したときの3番め、午前2時ごろから午前2時30分ごろまでで、俗に「草木も眠る」とか、「家の軒が3寸下がる」とかいい、魔物が跳梁する時であると考えられた。

丑の日(うしのひ)

十二支の丑にあたる日。夏の土用の丑の日には夏やせの薬に鰻の蒲焼を食べ、また、灸をする。寒の丑の日には丑紅を売る。

辛 丑(かのと・うし)

字の成り立ち

「象形文字」

丑は手の先を曲げてつかむ形を描いたもの。すばめ引き締める意を含み、紐(ジウ)・(ニウ)・(締めひも)・鈕(ジウ)・(締め金具)などの字の音符となる。殷代から十二支の二番目の数字に当て、漢代以後、動物・時間・方角などに当てて原義を失った。

𠂔 𠂔 𠂔 丑
甲骨 金文 小篆 楷書

丑を含む漢字

紐

「糸+(音符)丑(チュウ)(ねじる、ひねって曲げる)」で、柔らかい意を含む。

意味 ①ひも ②印のつまみ ③むすぶ

羞

「羊+丑(手をちぢめた形)」で、羊の肉を手で細く引きしめる意をあらわす。引きしぼる、細くちぢむの意を含む

意味 ①すすめる ②細く引きさいた肉 ③はじ。身が縮まる感じ

鈕

「金+(音符)丑(チュウ)」で、金属をひねって曲げてつくったつまみ

意味 ①つまみ。とって ②衣服などのボタン

狙

「犬+(音符)丑(チュウ)(くねくね曲がる)」

意味 ①なれる。身をよじらせて、なれ親しむ ②ならう。よくなれてかどばらない。また、そのさま

丑

を含むことわざ・慣用句

商いは牛の涎

商売は牛の涎が細く長く垂れるように気長に辛抱強くせよという意。「商い」に「飽きない」を掛けている。

牛驚くばかり

物の黒いさまにいう語。

牛つかむばかりの暗がり

物の判別もつかないまっ暗闇。

牛に汗す=汗牛充棟

(牛が汗をかくほどの重さと、棟につかえるほどの量、の意)蔵書の非常に多いこと。転じて、多くの書籍。

牛に経文

いくら説き聞かせても、何の効もないたとえ。=馬の耳に念仏

牛に喰われる

あざむかれる意。

牛に対して琴を弾ず

(魯国の公明儀が牛の前で高尚な趣の曲を琴で弾じたが、牛は素知らぬ顔で草を食べ続けていたという故事から)高尚なことを言っても志の低い者には理解されない。



牛に引かれて善光寺参り

(長野の善光寺の近くの不信強欲の老婆が、さらしておいた布を隣家の牛が角にかけて走ったのを追ひ、知らぬうちに善光寺に駆け込んで霊場であることを知り、後生を願うに至ったという伝説)ほかのことに誘われて偶然よい方に導かれるのにいう。

牛にも馬にも踏まれず

子供が無事に成長して一人前になることにいう。

牛の歩み

進みのおそいことのたとえ。牛歩。

牛の一散

(「一散」は一散走り)平生ぐずぐずしている人が調子に乗ってよくも考えずに決断することについて。

牛の龍抜け

鈍重なものには手ぎわのよいことはできないことのたとえ。

牛の角を蜂が刺す

痛くも何ともないことのたとえ。「鹿の角を蜂が刺す」とも。

牛の寝た程

物の多くあるさまの形容。山ほど。

